

神奈川・千葉地東遺跡

- 1 所在地 神奈川県鎌倉市御成町
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)四月～一〇月
- 3 発掘機関 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 中田 英・鈴木次郎・服部実喜
- 5 遺跡の種類 集落跡・中世居館跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(横須賀)

千葉地東遺跡は、国鉄鎌倉駅の西側約一〇〇mに位置し、遺跡の西側は若宮大路に平行して南北に走る今小路に接する。本遺跡の周辺には多くの中世遺跡があり、今小路をはさんだ西側に千葉地遺跡、南側には諏



0 (1)



5cm (2)

訪東遺跡が所在する。

本遺跡の発掘調査は、鎌倉県税務所の改築工事に伴って実施された。調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居と土壇、鎌倉時代から室町時代の河川・道路・基壇建物・礎石建物・掘立柱建物・溝・井戸・土壇などが検出され、また弥生時代後期から室町時代にかけての遺物が多数出土した。木簡は、呪符が一点(1)、付札が一点(2)、曲物の底板や折敷に墨書のあるものが三点、用途不明の木製品に刻書のあるものが一点(3)の計六点出土した。その他、墨書

のある卒塔婆が一点(4)出土した。出土位置は、(1)が河川の砂層、(2)が室町時代の土壌、(3)は鎌倉時代の包含層で、(4)は河川の木組護岸の杭に転用されていた。

8 木簡の釈文・内容

(1) 急如律令 急如律令 急如律令

200×24×3 011

(2) 「ぬま志り」

128×26×4 033

(3) 「六月二日のひ」

□□

135×53×11 065

(4) × ㄱ ㄹ 紀末年
為父也」

(605)×104×16 061

なお、木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館の田中稔氏・水藤真氏・平川南氏に御指導いただいた。記して謝意を表したい。

9 関係文献

神奈川県立埋蔵文化財センター『年報4』(一九八五年)

(服部実喜)

神奈川・蔵屋敷遺跡

- 所在地 神奈川県鎌倉市小町
- 調査期間 一九八二年(昭57)八月～十二月
- 発掘機関 鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会
- 調査担当者 小川裕久・服部実喜・玉林美男・永井正憲
- 遺跡の種類 居館跡
- 遺跡の年代 古墳時代前期～室町時代
- 遺跡及び木簡出土遺構の概要

蔵屋敷遺跡は、国鉄鎌倉駅構内に所在し、鎌倉市市街地のほぼ中央に位置する。若宮大路と今小路にはさまれた本遺跡の周辺では、

一九七五年前後より市街地の再開発が進められ、これまで多くの中世遺跡が発掘調査されている。

本遺跡の発掘調査は、国鉄鎌倉駅舎の改築工事に伴って実施された。調査の結果、奈良時代の溝状遺構や鎌倉時代から室町時代の掘



(横須賀)